

令和4年度第2回千葉市新基本計画審議会 議事要旨

1 日 時 令和5年3月10日（金）10時00分～11時00分

2 場 所 千葉市役所2階本庁XL会議室201～202

3 参加者 《委員》12名

石河 勲委員、石丸 美奈委員、岩崎 久美子委員、押田 佳子委員、
菊地 端夫委員、近藤 利砂委員、貞広 斎子委員、鈴木 雅之委員、
高梨 園子委員、轟 朝幸委員、松永 哲也委員、若狭 健委員（五十音順）

《事務局》6名

神崎 総合政策局長、堺 総合政策部長、濤岡 政策企画課長、
佐藤 政策企画課課長補佐、平野 政策企画課主査、松崎 政策企画課主査

4 議 題

- (1) 千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）原案の答申（案）について
- (2) その他

5 議事概要

- (1) 千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）原案の答申（案）について
事務局及び菊地政策評価部会長より説明を行い、千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）原案の答申について決定した。
- (2) その他
議事要旨の確定方法等について事務局より説明を行った。

6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（1）千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）原案の答申（案）について

（事務局）千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）の概要について参考資料1、参考資料2及び参考資料3をもとに説明を行った。

（菊地部会長）千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）原案の答申（案）について資料1をもとに説明を行った。

<意見交換>

菊地委員	政策評価部会において、諮問がありました原案の内容を10名の委員で計4回にわたり議論をさせていただきました。その議論のエッセンスを凝縮しまとめたものがこの答申（案）となります。 評価対象となる実施計画の期間はコロナの時期と重なっており、市の行政活動はいろいろな制約がありながらもなんとか行われてきたところかと思えます。部会では、このよう
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>な社会・経済情勢を考慮しながら検討を行いました。市民の実感に着目しますと、約7割の項目で市民の肯定的な実感が得られたことは、制約があつたなかでも新基本計画に基づくまちづくりが全体としては概ね順調に進捗してきたことを示すものと考えます。</p> <p>部会の議論における各委員からの意見を集約したものについては、答申（案）3ページ目以降に記載しています。全体を通して共通する政策評価の方法や政策評価シートに関する意見、行政活動の改善に関する意見について整理し、4ページ目以降にはまちづくりの5つの方向性ごとに政策評価シートに関する意見と行政活動の改善に関する意見をまとめております。全分野を通して、市民の生活実感に基づく評価が妥当であるか、コロナの影響や地域特性を踏まえた分析ができているか、また、様々な社会的な事象が複合的な課題となるなかで市内の連携を強化することや、コロナ禍において得られた知見・経験を今後の行政活動に活かすことなどといった様々な意見がございました。委員間での活発な意見交換があるとともに、私自身としても有意義な時間となりました。</p> <p>部会長として4回の審議に参加してきたなかで、改めて行政活動というのが行政・市役所だけで行われているのではなく、様々な機関や団体との連携を通じて事業が行われていると感じました。自治体が直接市民にサービスを提供するというシンプルなモデルとして考えがちですが、ビジネスでいうサプライチェーン、バリューチェーンのように複雑な構造になっていると考えます。</p> <p>次の基本計画は、みんなで共有しみんなで取り組むことを大きな基本としていることから、評価という活動も行政だけが評価を行うというのではなく、そこに関わる様々なステークホルダーを交えた評価が必要となると考えます。市民との関わりというのは政策の効果に大きく役割を果たしており、市民は単なるサービスの受益者・受け手ではなく担い手の一部であるといえると思います。政策評価の目的というのは、政策をもっと良くするといった機能的な側面での価値を作り上げていくこと以外にも、政策評価という活動を通じてお互いの理解を深める無形的な価値を作っていくことにも評価を行っていくことの意味があると思います。お互いの相互理解が深まるというのは見えにくいものではありますが、そのなかでは評価のプロセスをしっかりと記録し定性的な評価をしていくことが重要であり、今後の政策評価に対する考え方が変わってくるのではないかと思います。</p>
<p>轟会長</p>	<p>部会ではしっかり議論をいただいたと思います。私はこれまでの第1次、第2次実施計画の政策評価から関わっておりますが、このようなかたちで客観指標を設定し、それを踏まえて施策に結びつけるという関連づけを行うのはなかなか難しいと思います。施策ひとつがアウトカムに結び付いているわけではなく、様々なものが連携をしていますし、今回はコロナにより新しい課題が出てくるなかで目標自体も変えざるを得なかったと思います。そのなかでも、市民サービスを考え行政活動をしていただいた結果がこういった客観的なデータでも現れてきて、苦しい社会情勢の中でも市民の皆さんに評価をいただいたのではないかと考えています。</p> <p>もちろん課題はあり、個別にご指摘もいただいています。答申（案）において、様々なステークホルダーとの連携や、市民アンケートや客観指標を含め分かりやすい表現とすることについて記載があるのは、市民の皆さんと一緒に取り組んでいくという姿勢が重要であると理解をしております。その他、本当にたくさんの貴重なご意見をいただいたと思っております。</p>
<p>石丸委員</p>	<p>答申（案）の内容について妥当だと思います。</p> <p>否定が肯定を上回るということについて、「外国人と日本人がともに暮らしやすい環境」</p>

	<p>「男女共同参画」「道路の移動のしやすさ」があげられていますが、千葉市において非常に重要な課題だと思います。</p> <p>これらの課題について、この3項目だけではありませんが、2ページのところで、「行政活動の改善を図ることはもとより～（中略）～総合的かつ戦略的な取組みを進める必要があります。」と書かれていますが、否定が肯定を上回ったところはより強化していく必要があります、市民や関係者とともに進めていくといったことを書くといいのではないかと思います。このような連携の必要性については、最後の段落における「多様な人とつながりながら」という一文にその思いが込められていると思いましたので、その点を確認させていただきたいと思います。</p>
総合政策部長	<p>石丸委員のご意見について、お見込みの通りです。</p> <p>否定が肯定を上回っている3項目はもとより、例えば子育て環境であれば保育所は肯定的な評価であっても、子どもルームは否定的な評価であるなどといった、施策の柱としては肯定が上回っている項目であっても個別の内容について課題があり、そのような点についても深堀りし、評価をしております。そのようなところも含めて、我々としては今回顕在化した課題に対し改善を図ってまいりたいと考えております。「多様な人とつながりながら」というのもこれまでの審議会でのご意見を踏まえて追記した部分ですので、おっしゃった思いを乗せた答申として受け止めさせていただきます。</p> <p>また、次の基本計画においても「まちづくりを進める力」というかたちで一層の連携を図っていくことを打ち出しておりますので、今後についても評価のあり方を考えながら進めていきたいと考えております。</p>
石丸委員	<p>表現については「顕在化する社会変化」を「顕在化する社会課題」とした方が、より何を指しているか分かりやすいと思いました。</p>
菊地委員	<p>石丸委員の意見について、ご意見の通りだと思います。</p> <p>市民アンケートに関しては、市民の方が一般的なイメージで評価をする項目もあれば、サービスの受益者である当事者が評価をするものもあります。アンケートの対象者は無作為で抽出されておりますが、部会においては、その中で全体の評価と当事者による評価がどう違っているのかということ进行分析し、特に当事者の評価が分かれたところに注目しました。</p> <p>否定が肯定を上回った項目として「外国人と日本人がともに暮らしやすい環境」が挙げられますが、これは千葉市の取組みに限らず、コロナ禍における国の水際対策などといった国全体の雰囲気が反映されていると考えます。</p> <p>当事者の評価が分かれたところに着目した議論のなかであった意見については、答申（案）の3ページ目以降に反映しているところです。</p> <p>答申（案）の表現については変更しても良いと思います。</p>
総合政策部長	<p>新しい基本計画では、社会変化として、テクノロジーの進展などプラスに作用しうる変化についても整理しており、これを踏まえた答申案の表現としておりますが、この文脈においては、様々な顕在化した課題に対応していくという趣旨であり、石丸委員の意見の通りかと思えます。</p> <p>委員の意見を踏まえ、と、「顕在化する社会変化や課題」というように記載し答申をいただくのが良いのではないかと思います。</p>
轟会長	<p>それでは答申（案）について、「顕在化する社会変化に的確に対応し～」というところを「顕在化する社会変化や課題に的確に対応し～」と修正するというところでよろしいでしょ</p>

	うか。
各委員	異議なし
石河委員	<p>参考資料3について、例えば「2-5障害のある人が自立して暮らせる共生社会を創る」では、市の取組みの総括として客観指標の達成状況は5/6と概ね順調であります。生活実感指標では肯定と否定の差がほぼない結果であることから、全指標達成したとしても市民の評価はあまり上がらないのではと思われました。逆に、客観指標があまり達成してなくても市民から評価を得られている項目もあります。</p> <p>どの項目を重点的に取り組んでいくか、また別の視点で考える必要があるのかということについて、次回以降の評価において検討すべきではないかと思われました。</p>
総合政策部長	<p>石河委員の意見についてご意見の通りだと思います。</p> <p>「2-5障害のある人が自立して暮らせる共生社会を創る」において、サービスを受ける当事者から、通所サービスについてはプラスの評価でありました。一方、出先における支援や周囲の理解といった社会全体に関するところ、当事者の生活全般においてはマイナスの評価となっています。そういった状況を踏まえて、市として課題を認識し、バリアフリーの推進や障害者に対する理解促進を図る取組みを進める必要があると考えております。</p>
轟会長	<p>答申（案）の修正内容を確認します。修正箇所はさきほどの「顕在化する社会変化や課題に的確に対応し〜」1箇所を修正し、審議会の答申として決定してよろしいでしょうか。</p>
各委員	異議なし
轟会長	<p>それではこちらについて修正したものを本審議会の答申として決定します。</p>
<p><答申の手交> 決定した答申について、轟会長から神崎総合政策局長へ手交した。</p>	
<p>議題（2）その他 （事務局）参考資料4をもとに千葉市基本計画第1次実施計画（案）に関するパブリックコメント手続の実施について報告した。 議事録の確定方法について、事務局より説明した。</p>	
<p>—閉会—</p>	